

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770500710		
法人名	株式会社 ふれあい介護センター		
事業所名	グループホーム ふれあい愛知		
所在地	沖縄県宜野湾市愛知3-17-20		
自己評価作成日	令和3年 1月1日	評価結果市町村受理日	令和3年 4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4770500710-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和3年 1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつも笑顔で楽しい雰囲気、入居者様同士での関わりの時間も沢山あります。一人ひとりの個性を大切に、職員も一緒になって協力し合える環境で共同生活を送っています。好きな事や出来る事探し、ご本人様のペースでゆっくりした時間「ゆっくり関れる事で待つ姿勢」も大切にしています。「みんな家族、頼り頼られ 協力し合い、たくさんの笑顔を応援します！」の理念をモットーに、家族様や地域の方、関わる皆様と一緒に支えていけるグループホームを目指します！

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、デイサービスや有料老人ホームを有する複合施設の2階にあり、合同イベントや日々の運動、余暇活動等に利用者も参加する等の交流が日常的に行われている。事業所内はバリアフリーで、明るくゆったりとした空間が確保され、地域交流室では市委託の体操教室も行われている。利用者の思いやペースに合わせて、毎日や夜間の入浴にも対応し、入浴のない日は、就寝前の更衣や足浴、アロママッサージ等も行っている。食事は、好みのメニューへの変更にもできる限り対応し、調理や味見、片付けを一緒に行い、利用者の食への関心を高めている。トイレでの昼夜の排泄や布パンツ使用の希望にも対応し、排泄の自立支援に努めている。人事考課や資格取得助成金制度、正社員登用制度を整備するとともに、研修や勉強会の講師を職員が交代で努める等、職員の育成、資質向上にも努めている。家族には電話やLINEを用いて、新型コロナ対策への質問や面会方法の検討、利用者の様子等の情報を発信し、安心に繋げる努力をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 3月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有スペースに張り出し、理念を意識して業務を行っている。職員間で方向性がぶれないよう、ケアや業務に迷った時は特に意識してもらえよう、ミーティングの場などで再確認するようにしている。	開設時に独自に作成した理念の実現を目指し、利用者一人ひとりの思いを尊重した生活を支援している。日々のケアに関する疑問や悩み等は、常に職員間で話し合うとともに、研修や会議等を通して、理念の浸透に努めている。サービス方針も整備し、地域における社会的役割として、認知症の相談窓口やサポーター養成講座等にも取り組んでいるが、理念を具現化していくための目標、関連性が伝わりづらい。	地域密着型サービス事業所としての社会的役割についても、再度全職員で確認し、理念を実現していくための具体的な方針や目標等についての検討や工夫が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	8月に愛知自治会へ加入する事が出来たので、コロナ禍で止まっている地域の活動が復活の際は、お互いで情報交換や地域を巻き込んだ行事参加を話し合えた。	課題であった地域とのつきあいに對し、自治会へ粘り強く働きかけたことで加入が実現している。新型コロナウイルス感染症の収束後には、地域に、事業所の役割や認知症に関する情報を発信し、日常的な交流の場として計画していた認知症カフェの運営を準備している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎週木曜日、委託事業「いきいき筋力トレーニング」に参加させてもらっている。コロナ対策を徹底し、県の状況と情報に合わせながら開催中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の運営推進会議を、今年度は書面や電話といったツールを利用して行っています。今年度は、関わりある周りの状況や環境の情報交換等を、自事業所で出来る事の対策や報告を行う事で意見交換が出来た。	委員に自治会長や家族代表も参加し、会議をおやつの時間に開催することで、5~6名の利用者も参加していたが、5月以降は新型コロナウイルス感染防止のために文書での報告に変更している。管理者が各委員に資料を持参し、内容を口頭でも説明している。新型コロナウイルス感染防止対策や食事内容への質問には文書や写真で回答し、医療面についてのアドバイスを受ける等している。議事録は玄関横の棚に設置され、閲覧できる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	予定していた体操教室カフェの開催が難しく、複合施設で委託を受けている「いきいき筋力トレーニング」を主に参加している。宜野湾市より依頼があった際は、一時緊急時保護もやっている。	市町村とは運営推進会議の他、新型コロナ対応の情報共有等について、日頃から電話やメール等で連携している。市の事業を受託したり、一時緊急避難保護や生活保護受給者の受け入れ、対応等、日頃から協力関係を築いている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 3月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームならではの、入居者様のペースや認知症の症状に合わせたケアをモニタリングやリスクマネジメントを行っている。職員で解決が難しい件は、身体拘束委員会や複合施設全体等での相談の場も活用している。	身体拘束適正化に関する指針に沿って、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。家族からの、転倒による事故防止のためのセンサー使用の要望については適正化委員会で検討している。利用者から職員へのパワハラについての対応について、職員間でその要因や今後の対応等を検討した結果、定期的に外泊ができるよう家族の協力を得て実施している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃の自身がケアでの気づきや職員同士で気になるケアに対面したときは、必ずミーティングの場で話し合いを行い、職員間で注意し合える環境作りにも努め防止の徹底に努めている。	虐待防止の指針やマニュアルを整備し、自己点検シートや研修も実施している。日頃の言葉遣いや対応が、利用者にとって虐待に当たらないかを意識し、職員間で話し合う機会を持っている。ミーティングの最後には必ず接遇についても触れ、職員の意識向上に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の包括支援センター、社会福祉士が講師として「権利擁護・虐待」を年間法人勉強会で学ぶ機会がある。学んだ人権の尊重が大切である事を理解し、毎日のケアに活用出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、その前後で説明と同意を得てからの契約を行っている。加算の改定や料金見直しの場合は、覚書にてサインを頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様と家族様、医療連携を含め面会制限が始まってからは、電話やLINEで繋がっている家族様が多いです。相談や要望内容をしっかり受け止め、改善や要望に応えられるよう努めている。	家族から受診や面会時、運営推進会出席時に意見を聞いているが、新型コロナウイルス感染症防止のため、昨年2月以降は主にLINEや電話で対応している。転倒や認知症悪化を心配する家族の声があり、運営推進会議や法人の会議で検討し、状況に合わせて面会条件を緩和している。又、「事業所から電話がある度にドキッとすると」の声に対し、まず内容をメール等で伝えた後に電話する方法に変更している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 3月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課での事業所目標運営を自己評価し、外部評価自己評価(55項目)も職員全員が自己評価を行っている。その中で一人ひとりに理解出来ていない内容を、外部評価結果が出た後に勉強会を行っている。	管理者は、定例の職員会議や人事考課の面談時の他、毎月の給与明細書手交時に意見を聞いている。新型コロナの感染への不安には、法人の指針や取り組みを伝え、看取りや緊急時対応への不安には、訪問診療医や訪問看護師から助言を受けている。加算の意味も伝え、その意義を知ること、職員が使命感を持って取り組めるよう説明している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を活用する事で、個々が自己目標を持って仕事に取り組み、面談にて評価や一人ひとりの声が聞ける環境がある。	就業規則や運営規程を整備し、有給休暇の取得や健康診断の実施、休憩時間の確保等、就業環境の整備に努めている。人事考課制度や正社員登用制度、資格取得助成金(合格後の受験料補助等)制度の整備の他、リーダーが試験対策情報を発信する等、職員の意欲向上を図っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「OJT研修」を活用し新人職員には担当職員をつけたり、既存の職員へは業務役割分担・入居者様の個別担当をもたせている。毎月の事業所勉強会担当講師を職員が交代で回している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一般社団法人沖縄県認知症グループホーム協会の研修にて、備蓄調理研修・備蓄食品の検討を学ぶ機会があった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と直接お会いし、現在の困り事や不安を真摯に向き合い、希望される生活スタイルに近づけるようなサービスを目指し、話しやすい環境・関係作りを心がけている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 3月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの特徴を伝え、認知症で困っている事や集団生活で得られる不安軽減等を知ってもらえる事で、相談や要望に応えられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望やニーズを聴く事で、入居者様の現状に合わせたサービス情報提供を行う。法人全体の総合パンフレットに多種のサービス事業所がある事も強みとし、説明や案内が出来る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や趣味等の出来る活動は積極的に行って頂き、難しい所は職員も一緒に行くことで出来る事探しを常に意識している。ゆっくり過ごしたい方は、自由な時間の使い方、ご本人のペースで過ごしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が制限されている中で、LINE電話も活用するようになった。ご本人様の会いたい気持ちやケアで協力が必要な時は事業所側からも協力依頼や相談する事で、一緒に支える支援が行えている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯持参の方は毎晩連絡を取り合っていたり、認知症の症状で疎通が難しい場面では、職員が間に入って伝える事で途切れない関係作りもしている。	本人や家族から情報を得て、美容室や馴染みの店での買い物や外食を実施し、友人や知人が行事等に参加したこともある。毎週末自宅に帰り、カレーを食べることを楽しみにしていた利用者が、コロナ禍のためにできなくなったが、事業所でカレーを用意し、毎日電話することで関係継続を支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 3月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士でお喋りやお食事、家事の連携(食器洗い→食器拭きを分担したり)も行えている。職員と一緒に出来る事探しの視点を持って支援に関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅時は隣のデイサービス利用されていた入居者様が変わらず日中のレクへ参加している継続した関係があったり、退去されたご家族様から電話があつて繋がっている状況もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何かしら支援が必要な場面はあるも、個々によって生活リズムややりたい事、タイミングが違うので、その気持ちをくみ取りながら寄り添えるケアを意識している。	日頃の会話から、利用者の想いを把握し、塗り絵やビーズ、食器洗い、アロマ使用等支援している。会話が難しい方には家族から聞き、まず取り組んでみて、反応が薄ければまた他を考えることで、想いの把握に努めている。終末期の利用者に対し、家族の「噛むことが好きだから、できるだけ常食を」との意向に応えたり、家族も好物の果物を差し入れする等の支援によって病状の悪化が緩やかになっている事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様や家族様との会話のやり取りが情報。以前の暮らしの情報を知る事で、ニーズに応えられる支援に繋がっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録をしっかりと取り、個々の生活リズムを把握。いつもと違った様子や行動が見られる時は、職員間・家族様・医療連携を取りながら情報共有している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 3月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎にカンファレンスの中でモニタリングを行い、ケアプランの確認と見直しをしている。退院カンファレンスには必ず参加し、職員間での情報共有もしっかり行うようにしている。	利用者の介護計画は、目標を短期は3か月、長期を1年で設定し、居室担当者が前回のモニタリングを基にカンファレンスで協議し、担当者会議で検討して計画の見直し等を行っている。担当者会議へ参加できない医師や看護師からは、事前に意見をもらい計画に反映させている、感染予防のため利用者の計画に、家族とのLINEやビデオ電話等を追加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をしっかりと取る事で気づきや振り返りが出来ている。細かな状態記録が必要な入居者様には、認知症面・医療面に分けた記録も行い、情報提供書としても活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	好んで出来る家事をグループホームだけで捉えず、3階有料老人ホームのコップ洗いお手伝いへと出かけている方もいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍なので、密を避けながら人が集中しない場所の公園と時間帯を狙って外出を行った。時短と少人数も意識してなので、2日に分けての行動。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供書を各居室担当者が作成し、受診時の医療連携としている。受診が難しくなった場合の相談を受け、訪問診療へ変更される際の手続き等もお手伝いしている。	かかりつけ医を継続している利用者6人は、居室担当者作成の情報提供書持参で家族と受診し、受診後の結果は、家族から口頭で得ている。訪問診療に変更している3人は、受診時の様子を動画で家族に伝えている。利用者は、専門医受診や週1回の訪問看護、訪問歯科等で健康管理をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 3月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と違う様子が見られたり気になる事があれば、毎週水曜日の訪問看護で伝える事で指示や助言をもらっている。電話やメール(写真画像)での情報提供も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への情報提供書を提出、退院カンファレンス参加、グループホームへ戻った際ののりハビリアドバイスをもらう事が出来ている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化方針の説明を管理者が行い、状態変化時には主治医も一緒に今後の意向を話し合うカンファレンスを行っている。救急搬送・看取りのDNRをその都度確認していきながら、ご家族様の気持ちに寄り添い方針を共有している。	「重度化した場合における対応に関する指針」を作成し、同意書には、家族への説明内容の項目も記している。看取りに関しては、訪問診療や訪問看護との医療連携を図りながら現在も対応している。利用者の状態変化等に応じて、職員間の研修は訪問看護師等も一緒に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度はコロナ禍で法人全体の消防隊無しで、救急救命研修を各事業所にて行った。高齢者疾患や起こりやすいケガの処置も訪問看護から学んでいる。食事を詰まらせてのハイムリツヒ法を実践出来た職員もいた。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は自主訓練を開催。DVD動画の避難訓練研修も行った。自治会長が元消防士という事も心強く、複合施設全体のアドバイスも頂けた。備蓄の準備も担当を設けて随時チェック体制をとるようにしている。	災害対策として、複合施設全体で昼間想定 of 総合訓練を2回実施し、防災設備点検も定期的に専門業者によって行われている。災害対策マニュアル、3日分の備蓄も整備されている。DVD動画で他のグループホームの避難訓練を研修しているが、夜間想定 of 訓練が未実施である。	複合施設の2階に居住している環境と、夜間の職員体制が少ない中、上階にも数十人の住人がいることから、夜間想定 of 避難訓練は極めて重要であり、早期の実施が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 3月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前の呼び方や言葉使いに敬う気持ちを持って接するように心がけている。毎月のミーティングの最後に「接遇」「その人らしさ」のコメントを皆で声掛け合いながら、職員間でも注意し合える環境を作っています。	利用者の呼称は、基本「〇〇さん」とし、言葉遣いは、タメ口ではなく、丁寧な言葉で話す等を機会ある毎に振り返っている。排泄の失敗時等、利用者の気持ちを萎縮させない声かけに留意したり、入浴に1時間かかる利用者も制限せずに尊重し、対応している。居室入室時のノックや声かけ、浴室、トイレのドアの開閉等、利用者のプライバシーに配慮し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様同士でお喋りやお食事、家事の連携(食器洗い→食器拭きを分担したり)も行えている。職員と一緒に出来る事探しの視点を持って支援に関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同上に続き、出来る・参加出来る事は選んで活動して頂き、お断りされた場合はご自身のペースで過ごしてもらう時間・1日を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身でお化粧や髪の設定(移動美容室での毛染めやカットまで)をされていたり、着る服も選んで何度もお着替えを楽しんで面会や受診に出かける姿が見られる。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様から食べたい物を献立に取り入れたり、調理後の味見を楽しんだりしている。個々に合わせた食事内容や形態の変更もあり。配膳、食器洗いや拭きまでを出来る入居者様が数名集まり、一緒に作業する姿もある。	これまで朝・夕食は事業所で調理し、昼食は配食としていたが、感染防止対策により買物の機会が減ったため、朝夕を配食、昼食を事業所内調理に変更し、職員も利用者と一緒に食事を摂っている。利用者の希望を献立に取り入れ、利用者も味見、盛り付け、配膳、食器洗い、拭きに参加している。ホットプレートでのおやつ作りや餅つきに参加しておはぎを食する等、利用者を中心とした食事の場面をつくり、季節の食事の提供も行っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 3月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事を提供でき、その場で飲みたい物が選べるよう種類も用意している。ゼラチンで独自の野菜ゼリーやエンシュアゼリーで摂取される方もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食後の口腔ケア案内、個々に合わせて支援が必要な方やお誘いをし、見守りで出来る方には自信で行ってもらえる。夜間義歯お預かりの方は洗浄剤も利用している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗があっても自尊心に配慮した声かけや無理がない様にフォロー、必要な方への案内、日中は布パンツ使用。	同施設内デイサービスの体操教室に参加したり、施設周辺の散歩等で身体機能の維持を図り、昼夜ともに全員、トイレでの排泄を支援している。これまでの生活習慣を変更することなく、布パンツを継続している利用者も数人いる。おむつ対象者はいないが、職員はおむつの勉強会に参加し、情報収集に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤は個々の食事量等に合わせた量で調整している。なるべくは自然のお通じを目指し、食事や水分で調整し、必要に応じ腹部マッサージも試みている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご自身のタイミングで入ってもらえ、状態に合わせてはストレッチャー浴も行っている。毎日の入浴を好む方が数名おられ、要望に応じて入浴支援が行えている。	契約書で入浴は週3回を明示し、午後を基本に時間は自由(夜間可)として同性介助で対応し、対応する職員も利用者の希望を確認している。2名の利用者はほぼ毎日入浴し、他の利用者も体調に応じ入浴支援をしている。入浴が無い日は、就寝前の更衣を支援したり、最近では足のアロママッサージも始めている。利用者の誕生日に好みのシャンプー等をプレゼントしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 3月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に寝巻へお着替えを行い、足マッサージや足浴を対応。日中は入居者様の状態に合わせて、フロアーベッドや畳間へご案内し休憩時間を作っている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師、訪問看護や家族様と連携し、頓服用時も連絡を取り指示・アドバイスにて服用している。薬セット時と服用時のWチェック・処方箋ファイルを作り随時更新した処方箋を職員はチェックする等して対応している。	与薬忘れが数か月間報告され、また、誤薬もあり、職員間でその都度、対応策等の検討を繰り返している。3時間置きの服薬が必要な利用者の介護計画に「薬の飲み忘れの防止」を位置付け、忘れないようにアラームを設定し、対応している。服薬支援マニュアルを昨年見直し、誤薬防止の7R(正しい利用者・薬・目的・用量・時間確認等)を追加している。	利用者の服薬支援について、事故報告書の書式の検討、及び報告書に基づいた事故の再発防止の検討会議の実施、あわせて、薬の管理方法や薬の量、職員の役割等、投薬までの流れを図式化する等、支援内容の明確化が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅時に行っていた洗い物や掃除の家事、水かけやビーズ作り等の趣味をする事でお家に居るようにゆっくり過ごせている。個人で好きな物の購入をお願いされる事もあるので、要望に応じてストックする事もしている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策で外出支援を控えている最中です。しかし、全く外に出ない訳ではなく、ごみ捨て施設周りを歩いて外の空気を吸ったり、ホーム内で出来るおやつ会やレク活動を通して気分転換を図っている。	新型コロナ感染防止のため、季節に合わせた外出等は中止しているが、施設内の限られた場所を利用し、気分転換や筋力保持に努めている。施設周辺を、利用者の車椅子を他の利用者が押しながら散歩したり、同施設内デイサービスの体操にも参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の理解の元、お小遣いとして金銭の所持やホームで出納長を作り保管管理している方もいる。訪問ヤクルトやパン他、欲しい物を購入希望時は声をかけて使える環境がある。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 3月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されていて自由に連絡を取り合い、楽しく会話をしている姿がある。今年度からLINE電話も利用出来るようになり、事前に予約連絡をもらい入居者様に楽しみの待ち時間を持って頂き、ビデオ通話を楽しんでもらっている。季節に応じて壁面作りも入居者様と一緒にしている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は換気と適度な室温設定を繰り返し、窓から光が入る明るい共有スペースとなっている。対面キッチンにカウンターがついているので、入居者様とお喋りをしながら調理も出来る。	広い共用空間は明るく、壁にはちぎり絵が飾られ、広いフロアで、利用者が季節に合わせた行事やホットプレートを使ったおやつ作り等を楽しんでいる。カーテンで仕切られた場所には、譲り受けたベッドが設えられ、日中でも利用者が静養ができるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席、畳間で各々が自由にくつろげる環境がある。時間によってコーヒータイムやTV鑑賞、一緒に過ごす時間が沢山ある。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のアレンジは本人様と家族様にお任せしている。在宅時からの慣れ親しんだ鏡台で毎日髪の毛のセットや、家で使用していたタンスや寝具等を持参されている方も多い。	居室内にはベッド、タンス、洗面台、冷房機器が備えられ、窓には防火カーテンを設置している。利用者や家族の意向で、テレビや鏡台、衣類用のボックス、パイプハンガーラック等が持ち込まれ、時計や家族等の写真も多く見られる。入居者の生活状況に合わせて備え付けの家具を他の家具に変更することもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ案内板や日時がわかるようカレンダーや時計を共有すぺーすや居室内にも設置している。		